

平成29年度 観光振興施策の実施状況



観光政策課

目次

I	3つの核となる重点施策	
	1 観光目的客の取り込み ～個人旅行の誘客促進～	1
	2 ビジネス目的客の取り込み	3
	3 「訪日外国人4000万人時代」に向けた取組み	4
II	7つの基本方針	
	1 将来の観光を担う人材の育成	6
	2 「阿波とくしま」の魅力あふれる観光地づくり	8
	3 新たな観光旅行の開拓と滞在型観光の推進	16
	4 情報発信の強化による「観光とくしまブランド」の確立	18
	5 国際観光の推進	21
	6 広域観光の推進	25
	7 「阿波とくしま」らしいにぎわいの創出	26
III	徳島県観光振興基本計画数値目標 平成28年度進捗状況一覧	28

I 3つの核となる重点施策

1 観光目的客の取り込み ～個人旅行の誘客促進～

方向性

個人の価値観やライフスタイルの変化等により、会社の慰安旅行等の団体旅行が減少し、家族や友人・知人等と出かける個人旅行が観光の主流形態となっていることから、「個人旅行の誘客促進」につながる施策に重点的に取り組めます。

(1) 誘客コンテンツの整備

■阿波おどりの通年活用

- ・本県が世界に誇る阿波おどりの通年化に向け、「はな・はる・フェスタ」の春の阿波おどり、8月の本番に加え、「秋の阿波おどり」を開催し、有名連による「阿波おどり大絵巻」や、県外連を対象とした「全国阿波おどりコンテスト」などのイベントも行い、観光誘客を推進した。（観光政策課）

◆秋の阿波おどり H29.11.3～5 入場者数23,000人 コンテスト参加7連

■集客力の高いイベントの展開

- ・「マチ★アソビvol.18」（H29.5.5～5.7）、「ぷち★アソビvol.5」（H30.2.17～2.18）「マチ★アソビvol.19×国際アニメ映画祭」（H29.9.23～10.9）の開催を支援した。
- ・「とくしまマラソン2018」（H30.3.25）の開催を支援した。（にぎわいづくり課）

■「おどる宝島！パスポート」の充実強化

- ・本県の認知度向上や観光客の増加を図るため、パスポート形式のスタンプラリーを行った。
 - ◆H29年度 おどる宝島！パスポート発行数 約19万8千冊（累計）
 - ◆H29年度 おどる宝島！パスポートおもてなし施設数 約630施設
（うち淡路島約50施設）
- ・「おどる宝島！パスポート」の英語版・繁体字版を運用した。（観光政策課）

■他県に勝てる「食の名物」を創造

- ・阿波尾鶏指定料理店、徳島産はも指定料理店の登録の推進等により、徳島ならではの食を提供した。（農林水産部）

■トピックをとらえたキャンペーン

- ・平成29年度上半期は「文化」、下半期は「歴史」をキャンペーンテーマとして、大手旅行雑誌「じゃらん」と連携したキャンペーンブックによるPR、徳島県観光情報サイト「阿波ナビ」や旅行予約サイト「じゃらん」における特別ページによるPR等に取り組んだ。（観光政策課）



秋の阿波おどり



とくしまマラソン

(2) 効果的な情報発信

■旅行者に「直接届く」効果的な魅力発信

- ・「#徳島あるでないで」キャンペーン
 - ◆OTA（オンライントラベルエージェント）のウェブサイトを活用し、徳島県特集ページの開設や「体験」や「食」といった共通のテーマを組み込んだ宿泊プランを造成・販売した。
 - ◆徳島の魅力を新発見・再発見してもらうため、SNSを活用した投稿キャンペーンを実施した。（誘客営業室）

■重点発地でのプロモーション

- ・首都圏，関西圏に加え，空路で繋がる札幌，福岡等において，観光プロモーションを開催した。
 - ◆徳島県観光PRイベント（東京）H29.10.16
 - ◆徳島観光プロモーション（札幌）H29.6.29 H29.7.30 （福岡）H29.7.23 H29.10.15 H30.3.24
 - ◆「JAL新JAPAN PROJECT」によるPR展開 H29.12～H30.3
 - ◆「Tastes of Japan by ANA TOKUSHIMA」によるPR展開 H29.6～H29.8
 - ◆観光誘客・交流促進キャンペーン（富山） H29.10.22（誘客営業室、次世代交通課）



「#徳島あるでないでキャンペーン」ロゴ



徳島観光セミナー（札幌）

(3) 旅行商品の造成促進

■商談会、ファムツアーの実施

- ・旅行会社向けプロモーションとして商品説明会6回、ファムツアー2回実施。（誘客営業室）
 - ◆商談会
 - ・3旅連合同徳島キャラバン（大阪 H29.9.5）
 - ・2017しあわせぐるり、しこくるり。四国観光商談会（東京 H29.9.20、大阪H29.10.11、名古屋H29.10.24）
 - ◆ファムツアー
 - ・（一社）全国旅行業協会 埼玉県支部 H29.4.16～4.17
 - ・（一社）全国旅行業協会 秋の阿波おどり視察旅行 H29.11.4～11.6

■発地の旅行会社への強力な営業

- ・本県の認知度向上や観光客の増加を図るため，徳島の観光素材や宿泊及びバスの助成制度などプレゼンテーションし，旅行会社に対し効果的に情報提供を行い，商品の造成促進を図った。（誘客営業室）
 - ◆JR四国 大阪商品説明会 H29.5.22
 - ◆徳島観光セミナー（札幌）H29.6.29（福岡）H30.3.8
 - ◆（一社）全国旅行業協会東京都支部地区別例会 H29.4～H29.5
 - ◆JTB旅木連徳島支部 徳島県合同観光セミナー H29.12.12
 - ◆徳島観光プロモーション（ANAセールス本社）H29.10.16

2 ビジネス目的客の取り込み

方向性

企業・産業活動や研究・学会活動等と関連するコンベンションは、多くの集客交流が見込まれ、宿泊、飲食、物産、交通など地域経済への効果のほか、学会開催による研究開発支援などの波及効果も期待できることから、学会、大会、競技大会など「コンベンション誘致の促進」につながる施策に取り組めます。

■大会誘致の促進

- ・国内・国際コンベンションの誘致を促進するため、開催計画などの情報収集と意向調査に努め、関係団体等にその情報提供を行う。また、魅力あるアフターコンベンション情報を主催者に対して的確に発信し、県内での滞在日数や周遊箇所数の拡大に努めた。
- ・県内で開催されるコンベンションで、支援助成金の対象要件を満たす場合は、コンベンション主催者に対し開催費を助成するほか、郷土芸能等のアトラクション助成やシャトルバス運行等の助成を行った。さらに、延べ1000泊以上のコンベンションについては県立施設の使用料相当額を助成した。
- ・全国規模のMICE誘致促進を図るため、主催者側で開催の決定権を有する責任者などがコンベンション施設等の視察を希望する場合は、積極的に提案を行った。（県観光協会）
 - ◆国際MICEエキスポ（東京都）
H30.2.28 入場者数949人
 - ◆大阪MICEディスティネーションショーケース（大阪市）
H29.12.7 招待者数97人



国際MICEエキスポ

3 「訪日外国人4000万人時代」に向けた取組み

方向性

国においては、平成25年6月に「観光立国実現に向けたアクション・プログラム」を策定し、東南アジア諸国のビザ要件緩和等、観光立国の実現に向け取り組んできた結果、平成25年の訪日外国人旅行者数年間1,000万人を史上初めて達成し、オリンピック・パラリンピック東京大会が開催される2020年には4,000万人の高みを目指すとしています。

本県においては、最近の円安傾向やLCC（格安航空会社）などの新規就航等による航空座席供給量の増加等の訪日観光に対する追い風を最大限に活かし、これまでの東アジアや東南アジアに向けた団体旅行中心の誘客に加え、個人旅行の誘客、欧米でも人気のあるお遍路やアニメなど、「求められる観光資源」を「求める市場」に情報発信し、外国人観光誘客を推進します。

■ 国、地域の特性に合わせた誘客の推進

- ・香港、台湾の旅行会社やメディアを招聘し、本県の観光PRを行った。また、現地の旅行展示会への出展や旅行会社との商談の実施、現地セミナーの開催を行った。さらに、SNSによる情報発信を行い、一般消費者に向けても本県のPRを行った。（誘客営業室）
- ・四国4県で連携し、韓国の旅行会社を招聘しファムツアーを実施した。また、教育関係機関等の訪日教育旅行の受入れを実施した。（誘客営業室）
- ・他県との連携により、シンガポールにおいて旅行会社との商談会を実施するとともに、メディアを招聘した。さらに、タイ向けにはSNSによる情報発信を行い一般消費者に向けても本県のPRを行った。（誘客営業室）
- ・本県経済活性化や国際交流促進を図るため、徳島阿波おどり空港へ就航する国際チャーター便への運航支援を行うとともに、現地における積極的なエアポートセールスを実施した。（次世代交通課）
- ・国際線の就航や国内定期路線の充実に伴う混雑に対応するため、徳島阿波おどり空港新ターミナルの供用を開始した。（次世代交通課）
 - ◆平成29年度 香港連続チャーター便（18往復34便 搭乗者延べ4,414人）
 - 平成29年度 台湾双方向チャーター便（2往復4便 搭乗者延べ628人）

■ 効果的な情報発信

- ・徳島県多言語観光情報ウェブサイト「Discover Tokushima」（英語・繁体字・簡体字・ハングル）による情報発信、SNSを活用した情報発信（香港向け、台湾向け、タイ向け）を実施した。（誘客営業室）
- ・徳島県観光情報サイト「阿波ナビ」において、本県への宿泊者の多い外国人観光客（香港、台湾）向けに、中国語（繁体字）でのSNS情報発信を行った。（観光協会）

■ M I C E の誘致

- ・国際コンベンションの誘致を促進するため、開催計画などの情報収集と意向調査に努め、関係団体等にその情報提供を行う。また、魅力あるアフターコンベンション情報を主催者に対して的確に発信し、県内での滞在日数や周遊箇所数の拡大に努めた。
- ・県内で開催されるコンベンションで、支援助成金の対象要件を満たす場合は、コンベンション主催者に対し開催費を助成するほか、郷土芸能等のアトラクション助成やシャトルバス運行等の助成を行った。さらに、延べ1000泊以上のコンベンションについては県立施設の使用料相当額を助成した。
- ・全国規模のM I C E 誘致促進を図るため、主催者側で開催の決定権を有する責任者などがコンベンション施設等の視察を希望する場合は、積極的に提案を行った。（県観光協会）
 - ◆国際MICEエキスポ（東京都）
H30.2.28 入場者数949人
 - ◆大阪M I C E ディスティネーションショーケース（大阪市）
H29.12.7 招待者数97人

■ニューツーリズムの推進

- ・観光庁の広域観光周遊ルート形成促進事業において、四国は「スピリチュアルな島～四国遍路～」として認定されており、四国で連携して遍路文化のPRを行った。また、ファムツアーや旅行博出展の機会を捉え、遍路文化をはじめとする観光資源のPRを行った。（誘客営業室）
- ・アニメキャラクターや作品群を活用し、徳島ならではのコンテンツに磨きをかけ、国内外に情報発信するとともに、交流の拡大を図った。（にぎわいづくり課）

■受入環境の整備

- ・新たなクルーズ船の寄港を実現させ、国内外からの観光誘客を一段と加速させるため、クルーズ船の積極的な誘致活動や徳島ならではのおもてなしの充実強化を図った。（運輸政策課）
- ・外国クルーズ船寄港時において、通訳ボランティアの派遣とともに観光案内を実施し、受入体制の充実を図った。（誘客営業室）
- ・訪日外国人が快適に旅行できる環境を実現するため、県内事業者を対象に多言語表記やW i - f i 環境整備等に関する経費を助成をした。（誘客営業室）
- ・徳島県多言語観光情報ウェブサイト「Discover Tokushima」において、ハラール対応施設の情報発信を行った。（誘客営業室）



ダイヤモンドプリンセス

II 7つの基本方針

1 将来の観光を担う人材の育成

方向性

徳島県には、長年にわたるお接待文化により培われた「訪れる人を迎えるおもてなしの心」があります。こうした強みにさらに輝きを増し、「徳島県が目指すべき将来像」の実現に向けた県民総ぐるみのおもてなしの向上のため、地域の観光リーダーをはじめ徳島県の将来の観光を担う人材の育成を推進します。

(1) 観光に対する理解と関心の醸成

■小中高等学校での学習の推進

- ・幼稚園児から小学生までを対象に、郷土徳島を理解し、楽しみながら徳島の魅力を学習するために配布した「阿波とくしま観光かるた」を使って「第8回阿波とくしま観光かるた大会」を開催した。（県観光協会）

■郷土を再発見できる講座の開催

- ・徳島の文化・自然・暮らし等に関する地域に密着した学習を通して、「ふるさと徳島」を再発見するための講座や、地域の活性化、特色ある地域づくりなどの取組みにつながる講座を開催した。（総合教育センター生涯学習支援課）
- ・「山の日」（国民の祝日）にあわせた剣山登山や吉野川でのラフティング体験など、にし阿波ならではの魅力を再発見する「地域づくり実践講座」を開催した。（西部総合県民局）
- ・阿波人形浄瑠璃の後継者育成のため、伝承教室を開催した。（教育文化課）
- ・市町村と連携し「若杉山遺産」など重要遺跡や重要資料の再調査を進めたほか、国登録された「地震津波碑」を活用したシンポジウムを開催し、広く県内外に本県の文化財を発信した。（教育文化課）

■郷土について学びたい方への学習情報の提供

- ・「県民“まなび”拠点」である徳島県立総合高等学校において、高等教育機関や民間教育機関、NPO法人、市町村等の関係機関との連携を推進し、より充実した生涯学習情報をワンストップで提供した。（県立総合高等学校本部）
- ・生涯学習に関する6種類の情報(講座・イベント、人材・指導者、団体・サークル、施設、視聴覚教材、マナビィセンター図書情報)を提供し、県民の学習支援を行うとともに、生涯学習の関心・意識の向上を図った。（総合教育センター）

(2) 「おもてなしの心」を生かした観光客の受け入れ

■ 主要観光地等でのガイドによる対応

- ・ 剣山「ロングトレイル」コースを活用したガイド付きツアー商品を造成するとともに、インバウンド客への利便性を向上させるため、英語・繁体字の多言語対応マップを作成した。(西部総合県民局)
- ・ 2020年の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、来県する外国人観光客に対し、郷土徳島の魅力を英語で発信できる人材を育成した。(学校教育課)
 - ◆ Tokushima英語村プロジェクト・ステップアップ事業
 - 日 程：H29.6～H30.1の間で計8回
 - 受講生：県内高校生20名
 - 内 容：①徳島県の魅力に関するテーマ別研修
②英語通訳、タブレット端末等の活用術研修
③県外観光地への視察学習
④県内各観光地での実習
- ・ 県内観光ボランティア団体等を対象としたレベルアップ研修会や交流会等を実施するとともに、新規発足の団体に対する育成支援を行った。(県観光協会)
- ・ 観光ボランティア活動の認知度を高め、活動従事者の意欲の向上、ひいては本県を訪れる観光客へのホスピタリティ向上を図るため、観光ボランティアガイド功労賞表彰制度を創設し、4団体1個人に対して表彰を行った。(観光政策課)

■ 観光講座の充実

- ・ 観光による町づくりをはじめ、地域の魅力を活かした商品造りや受入態勢の向上等を推進する担い手を育成するため、県内の観光ボランティア団体や四国観光達人、体験型観光事業者等を対象に人材育成研修事業を実施した。(観光協会)

(3) 観光の振興に寄与する人材の育成

■ リーダーの育成 / 観光従事者の育成

- ・ 体験型観光に精通した専門家からのアドバイスを受けながら、コーディネーターのレベルアップを図るための研修会を行った。また、新たな地域における体験型観光をコーディネートする組織を整備するなどの取組みを促進した。(観光協会)
- ・ 選考基準に基づき当協会賛助会員355団体・企業からの推薦により本県観光振興に積極的な取組み等のある者を表彰した。(観光協会)

■ 外国人観光客に対応できる人材の育成

- ・ 訪日外国人観光客に対する「おもてなし」の充実を目的として、外国人観光客への「おもてなし」セミナーを開催した。(誘客営業室)
- ・ 県内で組織したボランティア通訳団体「徳島GGクラブ」において、徳島大学留学生への観光案内シミュレーションを含む例会を実施した。(誘客営業室)

■ 観光分野でのICT活用人材の育成

- ・ 県内在住の観光振興に興味がある人材を対象に、ICTを活用した情報提供を呼びかけ、徳島県観光情報サイト「阿波ナビ」等を通じて広く情報発信を行った。(観光協会)

2 「阿波とくしま」の魅力あふれる観光地づくり

方向性

徳島県が誇る観光資源により一層磨きをかけ、新たな観光資源を掘り起こすとともに、安心して快適な旅行を楽しんでいただけるホスピタリティなど観光地としての魅力の向上に努め、観光客に「行ってみたい」、「来て良かった」、「また来たい」と思っただけの魅力あふれる観光地づくりを推進します。

(1) 住んでよし、訪れてよしの観光地づくり

■観光客との交流が生まれる観光地づくり

- ・都市部イベントでのPR、ホームページ開設による四国内のグリーン・ツーリズム関連施設の紹介、グリーン・ツーリズム実践者研修会の開催等により、農山漁村と都市住民の交流を促進した。（ふるさと創造室）
- ・空き家を改修し、地域の交流施設として活用した。（住宅課）

■地域が一体となって取り組む観光地づくり

- ・鳴門の渦潮の世界文化遺産登録に向け、顕著な普遍的価値を証明するための学術調査を実施した。また、学術調査結果をもとにした普及啓発事業を実施し、鳴門の渦潮が有する文化的価値を広く発信するとともに、世界遺産登録に向けた機運醸成を図った。（広域行政課）
- ・「四国八十八ヶ所霊場と遍路道」の世界遺産登録に向け、課題である資産の保護を進めるため、史跡調査を行うとともに、県内関係市町等と連携し、連絡会議の設置や機運醸成イベント等を実施した。（広域行政課）
- ・地域資源を活かした体験型プログラムを、地域住民が中心となって提供するイベント「あわこい」を通じて観光地づくりを推進するとともに、冬季の閑散期における誘客の促進を図った。（西部総合県民局）

■ユニバーサルツーリズムの推進

- ・すべての人が安心して外出できるようにするため、県内におけるユニバーサルデザインの配慮がなされた施設の情報を、県のホームページで地図として提供しており、随時、データの修正、追加を行っている。（障がい福祉課）
- ・外国人にもわかりやすい観光案内標識の整備とともに、「高速道路ナンバリング」の導入を推進した。（道路整備課）



(2) 観光資源の育成

■お遍路と県内各地での観光の組み合わせ

- ・「四国八十八ヶ所霊場と遍路道」の世界文化遺産登録に向け、課題である資産の保護を進めるため、史跡調査を行うとともに、県内関係市町等と連携し、連絡会議の設置や機運醸成イベント等を実施した。（広域行政課）
- ・各地の自然や、四国八十八箇所をはじめとする歴史的・文化的遺産などに親しみながら、歩いて四国を一周できる「四国のみち」の整備を推進した。（環境首都課）

■伝統芸能の振興、活用

- ・二度の国民文化祭により醸成された文化振興の機運と磨き上げた地域ならではの文化資源を活用することにより、県民の誇りや心豊かなくらしを創出するとともに、国内外との交流促進による地域の活性化を図ることで「文化立県とくしま」を実現させるため、「徳島ならではの文化資源を活用した地域活性化モデルの構築」「音楽文化が息づくまちづくり」「文化の力によるまちづくりに意欲的に挑戦する市町村や文化団体への多面的支援」などを実施した。（県民文化課）
- ・「おどる宝島！とくしま魅力体感博2016メインイベント」として、「秋の阿波おどり」を開催した。（観光政策課）
 - ◆秋の阿波おどり H29.11.3～5 入場者数23,000人 コンテスト参加7連
- ・「はな・はる・フェスタ」への助成を通じ、「春の阿波おどり」を活用した誘客を図った。
 - ◆「はな・はる・フェスタ2017」 来場者数 25万人
- ・首都圏において「阿波おどり講座」を開講し踊りを習得していただき、阿波おどりモニターツアーを実施することで、より深く阿波おどりの魅力を伝えた。また、首都圏のイベントなどにおいて、阿波おどりを披露し、PRを行った。（東京本部）
- ・「まるごと徳島Day」や観光・物産展などのイベントの場で、阿波おどりなどをPRした。また、県人会との連携により、阿波人形浄瑠璃をPRした。（大阪本部）
- ・県外でのイベントや観光キャンペーン等に「阿波おどり」を派遣し、その魅力を実際に体感してもらうことにより、本場徳島への誘客を促進した。（観光政策課、東京本部、大阪本部、名古屋事務所）
- ・「徳島市阿波おどり」の際に、無料栈敷やにわか連、総合案内所の運営、交通円滑化の事業に助成するとともに、県外客への県庁外来駐車場の開放や駐車場情報の提供を行った。
- ・アスティとくしま内を阿波おどりの練習場所として提供した。

■伝統工芸の振興、活用

- ・東京の百貨店での工芸品展に、阿波正藍しじら織を出展し、伝統的工芸品産業の振興を図った。（観光政策課）
 - ◆伝統的工芸品展 WAZA 2018
H30.2.16～21 東京都東武百貨店池袋店
- ・阿波おどり会館「あるでよ徳島」で藍染め、しじら織シャツの販売を実施し、地場産業の振興を図った。（観光政策課）

■ 宿泊施設、飲食店等における地元食材の活用

- ・地産地消協力店制度や阿波尾鶏指定料理店、徳島産はも指定料理店の登録推進等により、徳島県産メニューを提供する飲食店等と連携して県外客にPRすることにより、徳島ならではの食を提供した。
(もうかるブランド推進課、畜産振興課、水産振興課)



活鱧キャンペーン



■ 観光資源の掘り起こし

- ・国内外から観光誘客の促進、地域資源を活用した誘客コンテンツの創出を図るため、「マチ★アソビ」や「とくしまアニメ大使」を活用したPR冊子を作成し、情報発信を行った。
(にぎわいづくり課)
- ・文化の森総合公園各館（図書館、博物館、近代美術館、文書館、21世紀館、鳥居龍蔵記念博物館）において、年間を通じ企画展等を開催し、徳島の文化創造活動の発展を支える拠点として、観光客の誘致を図った。（文化の森振興本部）
- ・LEDを効果的に取り入れた光の名所と呼べる場所やモニュメント等を「光の八十八ヶ所」として認定し、ホームページ等で広く情報発信を行った。（新未来産業課）

(3) 郷土料理や物産など総合的な魅力向上

■ 徳島ならではの食の提供

- ・阿波尾鶏指定料理店、徳島産はも指定料理店の登録の推進等により、徳島ならではの食を提供した。（もうかるブランド推進課、畜産振興課、水産振興課）
- ・徳島県酒造組合等、関係機関と連携して地酒の振興を図った。
 - ◆美郷梅酒まつり（吉野川市） H29.11.25～26
 - ◆四国酒まつり（三好市） H30.2.24
 - ◆日本酒フェア2017（東京都） H29.6.17
 - ◆第4回「四国×酒国」（大阪市） H29.5.28

■ 県産品のブランド化推進

- ・「徳島ならではの優れた県産品」である「とくしま特選ブランド」を、新たに25点認定した。（観光政策課）
- ・日本航空（株）との間で「観光」や「食」の振興など5分野において締結している「包括連携協定」に基づき、日本航空（株）の徳島阿波おどり空港スタッフが「阿波藍」ブラウスを着用し、徳島ブランドを発信した。（観光政策課）
- ・ANA機内誌「翼の王国」に伝統工芸品（藍染め）のPR記事を掲載し、国内外での徳島ブランドの知名度向上を図った。（観光政策課）
- ・木頭ゆずのEU市場におけるシェアを高めるため、県内初となる「地理的表示制度・GIマーク」の取得を進めるとともに、発進力や購買力に強い影響力を持つシェフやメディア等を産地に招聘する見学ツアーを実施し、新たな需要の開拓や販路開拓を図った。（南部総合県民局）
- ・本県の酒造りの振興を図るため、LEDの光を活用して育種に成功した新酵母「LED夢酵母」仕込みの日本酒を開発・販売する県内酒造メーカーの支援を行った。（新未来産業課）

◆ 県内酒造メーカー10社が34銘柄日本酒を開発・販売



LED夢酵母



とくしま特選ブランド

■ 県産品の販路拡大・販売促進

- ・部局間連携により、事業者の認知度拡大と全国への販路拡大の強化を図った。
 - ◆ 中国四国イオン会合同見本市 H29.10.10~12
 - ◆ スーパーマーケットトレードショー2018 H30.2.14~16
 - ◆ フードテックス2018 H30.3.6~9
- ・世界に羽ばたく「とくしま県産品」として、海外における県産品の認知度向上と販路拡大、本県への観光誘客につなげるため、香港で県産品PRを行った。（観光政策課）
 - ◆ 徳島県フェア H30.2.22~3.21
- ・ANAホールディングス（株）との間で締結した「包括業務提携」に基づき、物産・観光PRキャンペーンとして、「Tastes of Japan by ANA TOKUSHIMA」を実施した。（観光政策課）
- ・海外における徳島県産品の販路を開拓・拡大し、本県の知名度向上を図るとともに、観光誘客の促進を図るため、香港を中心としたアジア各国及び米国において物産展を開催した。（国際課）
- ・大都市で展開するトップセールスの展開、都内の協力店（飲食店）でのフェア開催など、大消費地での各種取組みを連動させることで、県産品の認知度向上と販路拡大、「とくしま回帰の流れ」を創出した。（もうかるブランド推進課）

(4) 地域の観光の振興に関する総合力の向上

■観光地の連携による周遊型観光の推進

- ・外部人材を活用した「四国の右下」ならではの体験型観光やイベント企画等を行い、県南エリアにおける地域資源を活用した誘客を促進した。(南部総合県民局)
- ・県南部で体験できる旬の観光素材や周遊ルートをもとめた「What Fun! Shikoku」(英語、繁体語、タイ語)を作成した。(南部総合県民局)
- ・本県の認知度向上や観光客の増加を図るため、パスポート形式のスタンプラリーを行うなど、広域的な観光ルートの開発や発信に努めた。(観光政策課)
 - ◆H29年度 おどる宝島!パスポート発行数 約19万8千冊(累計)
 - ◆H29年度 おどる宝島!パスポートおもてなし施設数 約630施設
(うち淡路島約50施設)

■観光地における表示の統一

- ・観光庁が策定した「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」等により周知を図った。(誘客営業室)

■観光に関する情報の共有化

- ・徳島県観光情報サイト「阿波ナビ」において、季節ごとに旬の情報を収集、発信した。また、開催中の地域イベントに参加し、体験談などを随時SNSで発信したほか、市町村や市町観光協会等から情報提供してもらい、観光情報の発信に努めた。(観光政策課)

■観光従事者の育成

- ・県内における体験型観光の受入態勢を整備するため、地元スタッフのスキルアップを図る研修会を開催するとともに、教育旅行関係者への広報及び海外旅行会社を招聘した県内視察ツアーを実施し、体験型観光による誘客促進を図った。(観光政策課)

(5) 自然環境及び良好な景観の保全

■自然体験活動等を通じた環境学習の推進

- ・環境学習を通して小中学生の問題解決力を育むため、地域と学校等が連携し、コミュニティを通じた環境学習が実践できるよう、環境アドバイザーの派遣や学習教材の提供などの支援を行った。また、環境学習の取組みが広がるよう、環境活動成果の発表会を実施した。(環境首都課)
- ・「県立神山森林公園イルローザの森」の適正な管理運営を行うとともに、県外客に対する情報発信や子供を対象とした「木育広場」のPRを強化するなど、森林公園への誘客を図った。(林業戦略課)
- ・牟岐少年自然の家において、子供の健全な育成を図るため、小・中学生に自然体験、集団宿泊体験の機会を提供した。また、県内外の一般の利用者に対しては、様々な体験活動メニューの提供と主催事業を実施した。(生涯学習課)

■環境と景観の美化

- ・アドプト・プログラム吉野川を推進し、吉野川の環境美化を進めた。(県民環境政策課)
- ・「ごみゼロの日」キャンペーン、「ごみゼロ阿波おどり大作戦2017」をはじめ、各地域、各環境ボランティア団体とともに協働して、環境と景観の美化に向けた普及啓発に取り組んだ。(環境首都課)
- ・遍路道等における環境美化を促進するため、関係団体との連携のもと、粗大ゴミ・大量投棄ゴミの撤去を協働して行うなど、主体的に取り組む市町村を支援した。(環境指導課)
- ・住民と行政が協働で道路景観の向上を図り、地域の歴史・文化や自然を活かした地域づくりを支援する「とくしま風景街道」の取組みを推進した。(高規格道路課)
- ・「とくしまマラソン」のコースとなっている吉野川において、雄大で風光明媚なその魅力を最大限に輝かせるため、ボランティア団体等と連携し、河川堤防等を桜など四季折々の花々で彩った。(流域水管理課)

(6) 観光客の利便性の向上

■着地型観光での利便性の向上

- ・「にし阿波お勧めビューポイント」をホームページやパンフレットの配布・パネル展の開催などにより広くPRを行い、「にし阿波～剣山・吉野川観光圏」の魅力向上に繋げ、観光客の当地への来訪滞在の促進を図った。(西部総合県民局)
- ・全国に配布されるアウトドアイベントのパンフレットに、スポーツ以外の食をはじめ地域資源に関する情報サイトの案内を行い、圏域の魅力について情報発信を行った。(南部総合県民局)

■一次交通の向上

- ・徳島阿波おどり空港発着路線の維持・拡充を図る利用促進事業を実施した。(福岡線団体旅行助成、乗継割引路線PR等)(次世代交通課)
 - ◆福岡便2便化 H30.3.25～
- ・四国を循環する高速交通ネットワークである「四国8の字ネットワーク」や主要幹線道路の整備を推進した。(高規格道路課)
 - ◆四国横断自動車道
 - ①徳島JCT～徳島東 用地取得・工事促進
 - ②徳島東～小松島 用地取得・工事促進
 - ③小松島～阿南 用地取得・工事促進
 - ◆阿南安芸自動車道
 - ④桑野道路 調査設計・用地取得促進
 - ⑤福井道路 調査設計・用地取得促進
 - ◆一般国道55号
 - ⑥牟岐バイパス 用地取得・工事促進
 - ⑦阿南道路 工事促進
 - ◆一般国道192号
 - ⑧徳島南環状道路 用地取得・工事促進
 - ◆一般国道32号
 - ⑨猪ノ鼻道路 工事促進
 - ⑩32号改築防災 調査設計促進
- ・徳島小松島港沖洲(外)地区に、船舶の大型化や緊急物資の海上輸送に対応した、耐震強化岸壁を有する複合一貫輸送ターミナルの整備を推進した。(運輸政策課)



複合一貫輸送ターミナル

■二次交通の整備

- ・観光客の県内での交通の利便性を確保し、広域周遊観光の促進による滞在時間や宿泊者数の増加を図るため、県内の交通結節点と観光地を結ぶ定期観光バスや周遊タクシーの実証運行を行った。（観光政策課）
- ・地域住民の生活交通手段を確保するため、地域間の幹線となるバス路線を支援することにより、観光客にとっても広域の移動手段が確保され、利便性が向上した。（次世代交通課）
- ・徳島阿波おどり空港から鳴門方面への二次交通の充実を図るため、「乗合・定額タクシー」の実証事業を実施した。（次世代交通課）
- ・タクシー運転者の「おもてなし力」の向上を図ることを目的に、「安全運転や接客マナー」「観光知識」の試験に合格したものを「おもてなしタクシー」に認定する取り組みを実施した。
 - ◆おもてなしタクシー認定者 71名

■道の駅での的確な情報提供

- ・市町村と連携しながら産直市が楽しめるなど、地域交流等拠点施設を目指し「道の駅」のサービス機能の強化を図った。（道路整備課）

■駐車場の確保

- ・徳島市阿波おどりの開催期間中、県外ナンバーの車両に対して県庁駐車場を開放し、観光客の利便性の向上を図った。（観光政策課）
 - ◆最大利用時 210台
- ・鳴門公園への観光客が集中するゴールデンウィークやお盆期間中において、無料駐車場の設置や無料シャトルバスを運行するなど、地元の市、関係事業者、指定管理者と連携し、渋滞の緩和対策を行った。（にぎわいづくり課）

（7）安全及び安心の確保

■事故、災害への備えに関する情報発信

- ・異常気象や自然災害等において、海外や県外からの観光客に情報発信を行う主要な観光案内所、宿泊施設等で構成する「にし阿波トラベルステーション」の効果的な運用に取り組むとともに、手軽で簡単に使用でき汎用性の高い「外国人観光客対応マニュアル」を作成した。（西部総合県民局）

■事故、災害発生時の迅速かつ的確な情報提供

- ・防災・危機管理情報「安心とくしま」ホームページにおいて、大雨に関する情報をはじめとした様々な危機事象について、地理空間情報との連動により、迅速かつ正確な情報の周知に努めた。（危機管理政策課）
- ・災害時における通信手段の確保を図るとともに、平時には観光情報等の提供・発信に活用するため、避難所や観光施設等に整備した「とくしま無料Free Wi-Fi」の運営を行った。（地域振興課）

3 新たな観光旅行の開拓と滞在型観光の推進

方向性

観光客の多様なニーズに応える旅行プランが提供できるよう、新たな観光旅行の開拓に努めるとともに、徳島県の魅力をより一層実感していただけるよう、本県ならではの魅力あふれる観光資源を活用した体験型観光などに積極的に取り組むことにより、滞在型観光を推進します。

(1) 新たな観光旅行の開拓

■グリーン・ツーリズム、ブルー・ツーリズムの推進

- ・農山漁村の魅力向上や「とくしま農林漁家民宿」の開業支援、インバウンドの受入態勢整備など、にし阿波地区の取組みの他地域への波及を図った。（ふるさと創造室）
- ・「南阿波よくばり体験」、「そらの郷山里物語」を中心とした体験型観光について、地域が一体となった取組みを支援した。（観光政策課）
- ◆H29年度 体験型教育旅行の受入泊数 4,967泊

■エコツーリズムの推進

- ・本県の優れた自然景観を有する自然公園の管理等を通じて、エコツーリズムを推進した。（環境首都課）

■医療観光の推進

- ・海外に向けた情報発信や人材育成に努めた。（誘客営業室）

■食を活用した観光の推進

- ・徳島ラーメン、豆天玉など徳島特有の食文化の情報発信を積極的に行い、観光客の来訪の促進に努めた。（観光政策課）
- ・「徳島の活鱧」のブランド品目としての確固たる地位を築くため、首都圏における需要の新規開拓や「日本三大はも祭り！」でのPR強化等を行い、「鱧といえば徳島」を実現した。（水産振興課）
- ◆「日本三大はも祭り」におけるPR<祇園祭、天神祭、阿波おどり>
- ・「梅酒まつり」、「四国酒まつり」等のイベントへの協力により、周遊型観光の誘客を推進した。
- ◆美郷梅酒まつり（吉野川市） H29.11.25～26
- ◆四国酒まつり（三好市） H30.2.24

■体験型教育旅行の誘致

- ・関係機関の連携により、「交流の質」を高め、受入を支援するとともに、韓国・台湾・香港等の有力地域を対象に、学校・旅行社等への積極的な誘致活動を行い、相手のニーズに応じた本県の魅力（体験型観光、伝統文化等）を発信した。（誘客営業室）
- ・徳島県月見が丘海浜公園において、緑豊かな海浜の景観、公園施設を活かしたバーベキュー体験等を通じて、キャンプ体験型旅行の誘致を行った。（都市計画課）

(2) 観光客の滞在促進

■観光資源の特色を生かした観光プランづくり

- ・「体験型観光」による地域振興を一層推進するため、個人向け商品の開発や農林漁家民宿の開業等を促進するなど、受入組織への支援に取り組んだ。（南部総合県民局）
- ・団体旅行等の需要喚起のため、貸切バス利用の県内宿泊旅行商品に対する助成を行い、県内宿泊を推進した。（誘客営業室）

■観光地の連携による周遊型観光の推進

- ・本県の認知度向上や観光客の増加を図るため、パスポート形式のスタンプラリーを行うなど、広域的な観光ルートの開発や発信に努めた。（観光政策課）
 - ◆H29年度 おどる宝島！パスポート発行数 約19万8千冊（累計）
 - ◆H29年度 おどる宝島！パスポートおもてなし施設数 約630施設
（うち淡路島約50施設）

4 情報発信の強化による「観光とくしまブランド」の確立

方向性

多くの観光客に選択される徳島を目指して、自然、文化、体験、食など多くの宝にあふれた本県の魅力を発信し、「阿波とくしま」の知名度向上を図るとともに、マスメディアや県人会のネットワーク等を活用した広告宣伝の実施など広く国内外に向けた情報発信を推進します。

(1) 徳島県の魅力に関する情報発信

■人的ネットワークの活用

- ・ 関西広域連合管内のシルバー大学生等が一堂に会する「関西広域連合管内シルバー大学校共同講義事業」を徳島県で開催し、共同講義等を通じて交流を深めることで「府県を越えた新たな仲間づくり」や「新たな生きがいづくり」を図った。（長寿いきがい課）

■インターネット、携帯サイトの活用

- ・ インターネットを活用した県産品のPRや県内事業者の電子商取引の促進を図り、販路拡大を図った。
 - ◆ 「あるねっと徳島」で県産品約700品をネット販売
 - ◆ 「楽天市場 あるでよ徳島」に出展し、県内事業者の電子商取引を推進
- ・ 「阿波ふうどスペシャリスト」のさらなるネットワーク化、発信力強化を図り、県産食材の積極的なプロモーションを実施し、県産食材のPR・販路拡大を推進した。（もうかるブランド推進課）

■情報発信拠点の充実

- ・ 災害時における通信手段の確保を図るとともに、平時には観光情報等の提供・発信に活用するため、避難所や観光施設等に整備した「とくしま無料Free Wi-Fi」の運営を行った。（地域振興課）
- ・ 県外本部内観光コーナー、都内アンテナショップなどのPRコーナーにおいて観光ポスターを展示するとともに、各種観光パンフレットを旅行業者や来客者に提供した。また、各種イベントにおいても積極的に観光情報の提供に努めた。（東京本部、大阪本部、名古屋事務所）
- ・ 東京・渋谷に、「食」をテーマとする情報発信拠点「ターンテーブル」を平成30年2月に開業し、食や観光など地域資源をテーマとする定期的なイベント展開を図った。（もうかるブランド推進課）
- ・ 県民や県外からの観光客に対し、県内で開催されるイベント等の情報を効果的に発信するため、道路情報板にその内容を表示した。（道路整備課）
- ・ 徳島県観光情報サイト「阿波ナビ」において、季節ごとに旬の情報を収集、発信した。また、開催中の地域イベントに参加し、体験談などを随時SNSで発信したほか、市町村や市町観光協会等から情報提供してもらい、観光情報の発信に努めた。（観光政策課）

■県民一人一人の情報発信力の向上

- ・「宝の島・徳島」を素材にしたデジタルコンテンツを顕彰することにより、地域の魅力の発信とクリエイターの発掘・育成を図った。（地域振興課）
- ・県内の魅力ある情報を県民が持ち寄って全国に向けて発信するWEBシステムを運用し、観光誘客の推進を図った。（地域振興課）
- ・徳島県立総合大学校において、SNSについての講座を開催し、県民のスキルアップを支援した。（県立総合大学校本部）

■大都市圏でのアンテナショップの活用

- ・全国に向けた、徳島県産品・観光の情報発信や県産品の販路拡大を実現するため、大阪・名古屋での物産センターの運営や、東京・福岡・札幌においてコンビニ協働事業を活用したアンテナショップ、「阿波とくしまアンテナショップ」認定支援等による展開を図った。（観光政策課）

■観光・物産展の開催

- ・大都市圏の百貨店やスーパー等において、四国観光物産展や徳島県単独の観光物産フェアを開催できるように働きかけ、本県特産品の販路拡大と誘客を図った。（大阪本部）
- ・「新鮮 なっ！とくしま」号の機動力をフルに発揮し、食博覧会大阪や県外量販店などのイベントに出動し、「徳島の食」を主体に、観光・文化を加えた「まるごと徳島」の情報発信を行った。（もうかるブランド推進課）
- ・南阿波グルメの地域内での浸透を図るため、南部地域が一体となって、食イベントの開催等を通じて「四国の右下」の魅力ある食をPRすることで、交流人口の増加と販売額の拡大に取り組んだ。（南部総合県民局）

■総合的な情報発信活動の強化

- ・平成29年度上期は「あわ文化体感博」、下期は「あわ歴史体感博」とテーマを絞った観光キャンペーンを実施。期間中は大手旅行雑誌「じゃらん」と連携して、パンフレットや県観光情報サイト「阿波ナビ」等で情報発信を行った。（観光政策課）
- ・近畿圏等との交流拡大を図るため、近畿圏等の府県と広報紙等のスペースを交換し、「本県の魅力発信」を行った。（秘書課）
- ・「とくしま宝島協議会」において、「3旅連合同キャンペーン」や「徳島県観光市町村連絡協議会キャンペーン」を支援した。（観光政策課）
- ・県外のイベントや観光施設等での「すだちくん」によるとくしまの情報発信を行った。（地方創生推進課）
- ・本県の認知度向上や観光客の増加を図るため、兵庫県（淡路島）と連携し、パスポート形式のスタンプラリーを行った。（観光政策課）
 - ◆H29年度 おどる宝島！パスポート発行数 約19万8千冊（累計）
 - ◆H29年度 おどる宝島！パスポートおもてなし施設数 約630施設
（うち淡路島約50施設）
- ・香川せとうちアート観光圏と連携して、両観光圏の滞在プログラムを組み合わせた旅行商品の造成に繋げるため、首都圏の旅行会社やメディアを招聘したファミツアーを実施し、モニタリング、情報発信を行った。（西部総合県民局）

(2) 様々なマスメディアによる魅力の発信

■ロケーションブランドの確立

- ・「徳島県ロケーション・サービス」を中心に、積極的にロケの誘致、支援を行った。
 - ◆ロケ支援件数 59件（映画3件、テレビ番組39件、CM2件、その他15件）
（観光政策課）

■マスメディアの露出効果の継続的活用

- ・「徳島国際短編映画祭」の開催や、徳島の自然・文化・食といったコンテンツを盛り込んだPR動画の活用等により、国内外に情報発信を行った。（地方創生推進課）
- ・各種新聞やフリーペーパー等に、観光やイベントに関する広告や関連記事を掲載してもらうことにより、徳島県の観光のPRに努めた。また、テレビや雑誌等の取材に対して積極的に協力し、観光素材や特産品のマスメディアへの露出効果を図った。（観光政策課）



徳島県ロケーション・サービス

(3) 旅行商品づくり

■旅行会社への積極的な情報提供

- ・3旅連主催による旅行AGTへのPRキャラバンや、県内市町村及び観光関連団体等による観光キャラバンに参加し、観光情報の発信に努めるとともに、旅行商品の造成を働きかけた。（観光政策課）
 - ◆3旅連主催による旅行AGTへのPRキャラバン H29.9.5
 - ◆2017しあわせぐるり、しこくるり。四国観光商談会（東京H29.9.26、大阪H29.10.11、名古屋H29.10.24）
- ・JTB旅ホ連徳島支部・徳島県合同観光セミナー H29.1.12
- ・旅行会社やメディアへの積極的な情報提供や企画提案により、魅力ある商品造成や誘客の促進を図った。（観光政策課）

5 国際観光の推進

方向性

徳島県が持つ豊かな自然や歴史的、文化的遺産、豊富な食材などを活用した外国人にも魅力高い観光メニューを創出するとともに、観光案内板の外国語表記など外国人観光客が快適に旅行ができるような受入環境の整備により徳島県への誘客を推進します。

(1) 国、地域の特徴に合わせた誘客の推進

■ 海外からの誘客活動の推進

- ・ 四国4県等と連携し、海外の旅行会社等を招聘しファムツアーを実施した。また、教育関係機関等の訪日教育旅行の受入れを実施した。(誘客営業室)
- ・ 他県との連携により、シンガポールにおいて旅行会社との商談会を実施するとともに、メディアの招聘を実施した。さらに、タイ向けにはSNSによる情報発信を行い一般消費者に向けても本県のPRを行った。(誘客営業室)
- ・ 関西広域連合、四国ツーリズム創造機構、せとうち観光推進機構と連携し、観光プロモーションを実施した。(誘客営業室)
- ・ 海外でのセミナーの開催や旅行会社の招聘など、国際航空便誘致に向け旅行会社等との関係強化を図った。(誘客営業室)
- ・ 本県経済活性化や国際交流促進を図るため、徳島阿波おどり空港へ就航する国際チャーター便への運航支援を行うとともに、現地における積極的なエアポートセールスを実施した。(次世代交通課)
- ・ 国際線の就航や国内定期路線の充実に伴う混雑に対応するため、徳島阿波おどり空港新ターミナルの供用を開始した。(次世代交通課)
 - ◆ 平成29年度 香港連続チャーター便(18往復34便 搭乗者延べ4,414人)
 - 平成29年度 台湾双方向チャーター便(2往復4便 搭乗者延べ628人)
- ・ 新たなクルーズ客船の寄港を実現させ、国内外から観光誘客を一段と加速させるため、クルーズ客船の積極的誘致活動や徳島ならではのおもてなしの充実強化を図った。(運輸政策課)
- ・ 「韓国市場商談会」に参加し、現地の旅行AGT等に対し本県の観光PRを行った。(観光協会)

■ 伝統文化等を活用した海外における観光宣伝活動

- ・ ドイツ、ロシア、中国、香港、タイ、スリランカ等の外国において、本県を代表する観光資源として阿波おどりのPRを行い、海外から本県への外国人観光客の誘客促進につなげた。(誘客営業室)

(2) 効果的な情報発信

■効果的な情報発信の推進

- ・徳島県多言語観光情報ウェブサイト「Discover Tokushima」（英語・繁体字・簡体字・ハングル）による情報発信、SNSを活用した情報発信（香港向け、台湾向け、タイ向け）を実施した。（誘客営業室）
- ・徳島県多言語観光情報ウェブサイト「Discover Tokushima」において、ハラル対応施設の情報発信を行った。（誘客営業室）
- ・海外メディアを招聘し、県内観光施設の取材とともに、現地で発行される雑誌や、ブロガーによる情報発信を行った。（誘客営業室）
- ・県内在住の留学生等を県内観光地に案内し、SNS等で母国へ情報発信してもらった。（誘客営業室）
- ・ドイツ・ニーダーザクセン州、中国・湖南省など本県と友好関係にある州、省等の来県にあたり物産品や観光地を紹介することで、本県の知名度の向上を図った。（国際課）
- ・徳島県観光情報サイト「阿波ナビ」において、本県への宿泊者の多い外国人観光客（香港、台湾）向けに、中国語（繁体字）でのSNS情報発信を行った。（観光協会）

(3) MICEの誘致

■主催者への直接的なPR

- ・展示会等の機会に関係を持った主体に対する継続的な徳島県観光情報の発信を行った。
(誘客営業室)
- ・国内・国際コンベンションの誘致を促進するため、開催計画などの情報収集と意向調査に努め、関係団体等にその情報提供を行う。また、魅力あるアフターコンベンション情報を主催者に対して的確に発信し、県内での滞在日数や周遊箇所数の拡大に努めた。
- ・県内で開催されるコンベンションで、支援助成金の対象要件を満たす場合は、コンベンション主催者に対し開催費を助成するほか、郷土芸能等のアトラクション助成やシャトルバス運行等の助成を行う。さらに、延べ1000泊以上のコンベンションについては県立施設の使用料相当額を助成した。
- ・全国規模のMICE誘致促進を図るため、主催者側で開催の決定権を有する責任者などがコンベンション施設等の視察を希望する場合は、積極的に提案を行った。(県観光協会)
 - ◆国際MICEエキスポ(東京都)
H30.2.28 入場者数949人
 - ◆大阪MICEディステーションショーケース(大阪市)
H29.12.7 招待者数97人

(4) ニューツーリズムの推進

■新たな旅行商品の造成促進

- ・観光庁の広域観光周遊ルート形成促進事業において、四国は「スピリチュアルな島～四国遍路～」として認定されており、四国で連携して遍路文化のPRを行った。また、ファムツアーや旅行博出展の機会を捉え、遍路文化をはじめとする観光資源のPRを行った。
(誘客営業室)
- ・アニメキャラクターや作品群を活用し、徳島ならではのコンテンツに磨きをかけ、国内外に情報発信するとともに、交流の拡大を図った。(にぎわいづくり課)
 - ・海外の教育機関等への訪問によるプロモーションや現地教育関係者の県内視察等を通じ、本県の魅力や受入態勢をPRし、教育旅行誘致を促進した。(観光協会)

(5) 受入環境の整備

■多言語表記の推進

- ・訪日外国人が快適に旅行できる環境を実現するため、県内事業者を対象に多言語表記やW i - f i 環境整備等に関する経費を助成をした。(誘客営業室)
- ・外国語版「おどる宝島!パスポート」を活用し、旅行者の周遊促進を行った。(誘客営業室)

■外国人観光客への案内サービスの向上

- ・(公財)徳島県国際交流協会において、外国人観光案内業務を実施し、観光情報の提供、問い合わせ対応等を実施した。(誘客営業室)

■観光情報収集の利便性向上

- ・県内の観光施設等の情報を掲載した多言語対応観光アプリケーションを制作・公開した。

(6) 海外との相互交流

■海外とのネットワークづくりによる相互交流の活性化

- ・ドイツ・ニーダーザクセン州やアジア諸地域にある学校との間でパートナーシップ協定締結促進による学校間交流を促進し、グローバルスタンダードを身につけた人材を育成した。(学校教育課)
- ・次世代のグローバル・リーダーを育成するため、県南の施設を有効活用して、高校生が、英語を通して多様な価値観を持った多国籍・同世代の学生と交流し、世界を意識した自己探求できる場を創造した。(学校教育課)
 - ◆期間：H29.8.16~22 6泊7日
 - 場所：県立牟岐少年自然の家、牟岐町海の総合文化センター
 - 内容：少人数セミナー、フォーラム、地域ワークショップ、フリーインタラクション
 - 参加者：高校生 50名(県内30名、県外20名)
 - ハーバード大学を中心とした海外大学生 14名
 - 国内バイリンガル大学生 14名
 - 県内外の大学生実行委員 28名



徳島サマースクール
フリーインタラクション

6 広域観光の推進

方向性

徳島県内の各観光地の連携、市町村間の連携、さらには近隣府県との連携により観光集客力を高めるよう広域観光施策を推進します。

(1) 広域的な観光地の形成

■観光地の連携による滞在型観光の推進

- ・本県の認知度向上や観光客の増加を図るため、兵庫県（淡路島）と連携し、お得な割引きを受けられるクーポンの実施やパスポート形式のスタンプラリーを行った。（観光政策課）
 - ◆H29年度 おどる宝島！パスポート発行数 約19万8千冊（累計）
 - ◆H29年度 おどる宝島！パスポートおもてなし施設数 約630施設
（うち淡路島約50施設）
- ・「体験型観光」による地域振興を一層推進するため、個人向け商品の開発や農林漁家民宿の開業等を促進するなど受入組織への支援に取り組んだ。（南部総合県民局）
- ・香川せとうちアート観光圏と連携して、両観光圏の滞在プログラムを組み合わせ合わせた旅行商品の造成に繋げるため、首都圏の旅行会社やメディアを招聘したファムツアーを実施し、モニタリング、情報発信を行った。（西部総合県民局）

(2) 四国4県、関西圏及び瀬戸内エリア等での連携

■近隣府県と一体となった観光への取組み

- ・平成29年4月から6月の期間、JRグループ6社と四国4県、観光事業者等が協働し、大型観光キャンペーン「四国デスティネーションキャンペーン（四国DC）」を開催した。（観光政策課）
- ・「四国ツーリズム創造機構」と連携し、四国はひとつとしての官民一体となった観光の推進に取り組んだ。（観光政策課）
- ・「淡路島&徳島とくたく周遊ガイド」の作製・配布や、「ひょうご・とくしまツーリズムバス事業」により兵庫県との連携を図った。（観光政策課）
- ・関西広域連合加盟府県市との連携による現地トッププロモーションやファムツアーを行い、関西一体となった誘客促進を実施した。（誘客営業室）
- ・せとうち観光推進機構構成各県連携による海外旅行社向けセミナーの実施やファムツアーを行い、瀬戸内一体となった誘客促進を実施した。（誘客営業室）

7 「阿波とくしま」らしいにぎわいの創出

方向性

多くの人が集まる場には、活気とにぎわいが生まれ、そして人や物、情報など様々な交流が図られ、地域の活性化が期待できます。阿波おどりに代表されるような多くの人でにぎわう徳島づくりを目指して、「阿波とくしま」にふさわしいにぎわいの創出を推進します。

(1) イベントの開催などによる集客

■地域資源の活用、市町村や地域団体との連携による集客力の向上

- ・首都圏において、観光物産キャンペーンを開催し、阿波おどりを県産品を積極的に活用して、イベントの集客力を向上し、本県の県産品のPRと観光誘客を図った。(観光政策課)
 - ◆徳島県観光PRイベント(東京) H29.10.16
- ・「とくしまマラソン2018」(H30.3.25)の開催を支援した。(にぎわいづくり課)
- ・とくしまマラソンの前日に、初心者やファミリー層をターゲットとした「ファンラン」をランニングイベントと併せて開催するとともに、マラソン当日には「後夜祭」を開催した。(にぎわいづくり課)
- ・「マチ★アソビvol.18」(H29.5.5~5.7)、「ぷち★アソビvol.5」(H30.2.17~2.18)「マチ★アソビvol.19×国際アニメ映画祭」(H29.9.23~10.9)の開催を支援した。
- ・「怪遺産」認定地がある徳島県、岩手県、鳥取県の3県が、地域活性化、観光誘客を図る「怪フォーラム2017in徳島」を開催した。(観光政策課)
- ・ラフティング世界選手権の開催を契機として、「にし阿波」のアクティビティを国内外に情報発信し、観光誘客の推進を図った。(西部総合県民局)



ラフティング世界選手権



怪フォーラム

(2) コンベンション誘致

■コンベンション実施主体への助成

- ・国内・国際コンベンションの誘致を促進するため、開催計画などの情報収集と意向調査に努め、関係団体等にその情報提供を行った。また、魅力あるアフターコンベンション情報を主催者に対して的確に発信し、県内での滞在日数や周遊箇所数の拡大に努めた。
- ・コンベンション主催者に対する開催経費や郷土芸能等のアトラクション、シャトルバス運行等の助成を行い、延べ1000泊以上のコンベンションについては、さらに県立施設の使用料相当額の助成を行うことで、コンベンション誘致促進を図った。
- ・商談会、個別営業活動により、コンベンションの助成内容を積極的に発信した。
 - ◆第26回国際ミーティングエキスポ（横浜市）
H28.12.6～7 入場者数2,791人
 - ◆東北地区&中国四国地区合同コンベンション誘致懇談会（東京都）
H29.1.31 招待者数128人
 - ◆大阪MICEディスティネーションショーケース（大阪市）
H28.9.1 招待者数100名（うち海外19名）
 - ◆韓国教育旅行誘致事業
H28.9.30～10.4 参加者5人
 - ◆香港MICE取扱旅行社招聘事業
H28.6.15～19 参加者5人

(3) スポーツによるにぎわいづくり

■交流人口の増加

- ・国内外のマラソン大会等において、とくしまマラソンのPR活動を行った。（にぎわいづくり課）
- ・合宿や交流試合を実施するためのワンストップサービスを実施するとともに、スポーツ合宿を扱う旅行代理店や大学・企業に対してPR活動を行った。（にぎわいづくり課）
 - ◆合宿情報誌HPにスポーツ王国HPのリンク掲載を行った。
 - ◆関西の合宿専門取扱旅行会社5社を訪問し、本県の合宿誘致セールを実施
- ・鳴門渦潮高校と鳴門・大塚スポーツパークを中心に、県内のスポーツ拠点を活用して、高校生のトップアスリートを招聘し、合同練習・試合をとおして、県内の高校生競技力の向上につなげるとともに、交流人口の増加を図った。（体育学校安全課）
- ・サイクルスポーツを通じた新しい魅力を創出し、「自転車王国とくしま」ブランドを発信するため、ライドイベントの開催及び開催支援、「TOKUSHIMAサイクルフェスタ」や「サイクルトレイン」の運行等を実施した。（県民スポーツ課）

■プロスポーツチームの集客力や情報発信力を活用してのにぎわいの創出

- ・優秀選手の表彰、小中学生グループ招待を実施。また、ホームゲームにおいて「徳島ヴォルティスホームタウン協議会」との連携事業を実施した。（にぎわいづくり課）



とくしまマラソン

「徳島県観光振興基本計画（第2期）」数値目標
平成29年度 進捗状況一覧表

数値目標（項目）	単位	現況値		実績値 (29年度)	目標値		H29年度進捗状況の説明 (29年度実績値がない場合は、 28年度進捗状況とする)	所属
		年度	年度		年度	年度		
【戦略目標】								
宿泊者数	万人	226	25	230	300	30	着地型旅行商品の販売促進や「ふるさと旅行券」の発行など、宿泊者数増加及び観光誘客促進に向けた取組みを実施した。	観光政策課
外国人宿泊者数	人	32,310	25	102,810	80,000	30	重点市場である香港、台湾でのプロモーション、TV局の取材の受入れ、SNSでの情報発信など、宿泊者数増加及び観光誘客促進に向けた取組みを実施した。	誘客営業室
コンベンション参加者数 (中四国規模以上)	人	96,494	25	107,764	130,000	30	積極的な誘致活動、開催助成金の支給等により、コンベンション誘致の促進に取り組んだ。	観光政策課
【個別目標】								
＜3つの核となる重点施策＞								
1 観光目的客の取り込み ～個人旅行の誘客促進～								
延べ宿泊者数<再掲>	万人	226	25	230	300	30	着地型旅行商品の販売促進や「ふるさと旅行券」の発行など、宿泊者数増加及び観光誘客促進に向けた取組みを実施した。	観光政策課
延べ観光入込客数	万人	1,964	25	2,014	2,300	30	着地型旅行商品の販売促進や「ふるさと旅行券」の発行など、宿泊者数増加及び観光誘客促進に向けた取組みを実施した。	観光政策課
「おどる宝島！パスポート」 発行数（累計）	冊	20,000	25	198,000	200,000	30	県内の観光地や宿泊施設、飲食店等において「おどる宝島！パスポート」を配布し、リピーターの来県を促進する取組みを実施した。	観光政策課
「マチ★アソビ」 年間参加者数	千人	113	25	165	160	30	海外アニメイベントにおいて、「マチ★アソビ」をPRするとともに、海外からコスプレイヤーの招聘や観光モデルコースの検証を行うなど誘客の促進に努めた。	にぎわいづくり課
「とくしまマラソン」 2万人大会の開催	大会	1万人	25	1.5万人	2万人	30	第11回「とくしまマラソン」の開催準備を行った。	にぎわいづくり課
体験型教育旅行における 協議会受入泊数	泊	5,646	25	4,967	7,000	30	本県の持つ豊かな自然や食材等を利用し、教育旅行の誘致・受入れに積極的に取り組んだ。	観光政策課
2 ビジネス目的客の取り込み								
コンベンション参加者数 (中四国規模以上) <再掲>	千人	96	25	108	130	30	積極的な誘致活動、開催助成金の支給等により、コンベンション誘致の促進に取り組んだ。	観光政策課
3 「訪日外国人4000万人時代」に向けた取組み								
外国人延べ宿泊者数<再掲>	千人	32	25	103	80	30	重点市場である香港、台湾でのプロモーション、TV局の取材の受入れ、SNSでの情報発信など、宿泊者数増加及び観光誘客促進に向けた取組みを実施した。	誘客営業室
外国人延べ入込客数	千人	38	25	53	100	30	重点市場である香港、台湾でのプロモーション、TV局の取材の受入れ、SNSでの情報発信など、宿泊者数増加及び観光誘客促進に向けた取組みを実施した。	誘客営業室
＜7つの基本方針＞								
1 将来の観光を担う人材の育成								
「とくしま観光講座」 受講者数（累計）	人	513	25	810	900	30	着地型旅行商品造りの手法や販売戦略等についてのセミナーを開催した。	観光政策課
体験型観光のインストラクター 研修の実施数（累計）	回	18	25	31	28	30	「南阿波よくばり体験推進協議会」において、インストラクターの研修・養成講座を開催し、体験型観光指導者の育成に取り組んだ。	観光政策課
2 「阿波とくしま」の魅力あふれる観光地づくり								
「おどる宝島！パスポート」 発行数（累計） <再掲>	冊	20,000	25	198,000	200,000	30	県内の観光地や宿泊施設、飲食店等において「おどる宝島！パスポート」を配布し、リピーターの来県を促進する取組みを実施した。	観光政策課
とくしま特選ブランドの 商品総売上額	億円	14	25	94 (H28)	28	30	世界に誇れるトップブランドをコンセプトに、国内外に誇れる品質、商品ストーリー、独自のこだわりの各要素を持ち合わせた県産品を「とくしま特選ブランド」として広くPRした。	観光政策課

「徳島県観光振興基本計画（第2期）」数値目標
平成29年度 進捗状況一覧表

数値目標（項目）	単位	現況値		実績値 (29年度)		目標値		H29年度進捗状況の説明 (29年度実績値がない場合は、 28年度進捗状況とする)	所属
		年度	年度	年度	年度	年度	年度		
観光の日における 美化参加団体数（累計）	団体	55	25	77	150	30	県内の市町村に観光地等の美化活動について協力依頼を周知し、各地の美化活動の推進に取り組んだ。	観光政策課	
県南地域への「四国8の字 ネットワーク」の整備	—	鳴門JCT (仮称) ～徳島IC 整備促進 用地取得 完了(本 線工事着 工率 100%)	25	徳島JCT (仮称) ～阿南IC (仮称) 用地取 得・工事 促進	徳島JCT (仮称) ～阿南IC (仮称) 工事全面 展開中	30	徳島JCT(仮称)～阿南IC(仮称)について、 用地取得及び工事を促進した。	高規格 道路課	
3 新たな観光旅行の開拓と滞在型観光の推進									
延べ宿泊者数<再掲>	万人	226	25	230	300	30	着地型旅行商品の販売促進や「ふるさと旅行券」の発行など、宿泊者数増加及び観光誘客促進に向けた取組みを実施した。	観光政策課	
延べ観光入込客数<再掲>	万人	1,964	25	2,014	2,300	30	着地型旅行商品の販売促進や「ふるさと旅行券」の発行など、宿泊者数増加及び観光誘客促進に向けた取組みを実施した。	観光政策課	
体験型教育旅行における 協議会受入泊数<再掲>	泊	5,646	25	4,967	7,000	30	本県の持つ豊かな自然や食材等を利用し、教育旅行の誘致・受入れに積極的に取り組んだ。	観光政策課	
とくしま農林漁家民宿の 体験宿泊者数	人	1,780	25	3,713	3,200	30	農林漁家民宿を対象とする研修会の開催や新規開業支援、HPやイベント等でのPR活動に積極的に取り組んだ。	ふるさと創 造室	
県産品を使ったメニュー・ 商品開発数（累計）	件	107	25	239	220	30	コンビニエンスストアやスーパーマーケット等との連携による県産品を使った商品開発を行い、県産品の魅力を発信した。	観光政策課	
4 情報発信の強化による「観光とくしまブランド」の確立									
観光情報サイトアクセス件数	万件	70	25	80	90	30	「阿波ナビ」サイトの改善や、提供情報の充実を図った。	観光政策課	
県外で県産品を食べられる 店舗数	件	62	25	133	150	30	県外で県産品を食べられる店、県外で県産品が買える店を掘り起こすことにより、県産品の販売体制の充実を図った。	観光政策課	
県産品を使ったメニュー・ 商品開発数（累計）<再掲>	件	107	25	239	220	30	コンビニエンスストアやスーパーマーケット等との連携による県産品を使った商品開発を行い、県産品の魅力を発信した。	観光政策課	
アンテナショップ(コンビニ) の新規取扱商品数（累計）	件	181	25	510	400	30	全国に向けた、徳島県産品・観光の情報発信や県産品の販路拡大を実現するため、コンビニ協働事業を活用したアンテナショップ等による展開を実施した。	観光政策課	
映画、ドラマ、CM等の ロケ撮影支援件数（累計）	件	265	25	433	380	30	的確な情報提供とアテンドにより、県内ロケの支援・誘致を積極的に行った。	観光政策課	
5 国際観光の推進									
外国人延べ宿泊者数<再掲>	千人	32	25	103	80	30	重点市場である香港、台湾でのプロモーション、TV局の取材の受入れ、SNSでの情報発信など、宿泊者数増加及び観光誘客促進に向けた取組みを実施した。	誘客営業室	
外国人延べ入込客数<再掲>	千人	38	25	53	100	30	重点市場である香港、台湾でのプロモーション、TV局の取材の受入れ、SNSでの情報発信など、宿泊者数増加及び観光誘客促進に向けた取組みを実施した。	誘客営業室	
6 広域観光の推進									
ひょうご・とくしまツーリズム バス助成件数（累計）	件	267	25	381	410	30	兵庫県と連携したバス団体旅行への支援を行うことにより、広域観光の推進に取り組んだ。	観光政策課	
コンベンション参加者数 (中四国規模以上)<再掲>	千人	96	25	108	130	30	積極的な誘致活動、開催助成金の支給等により、コンベンション誘致の促進に取り組んだ。	観光政策課	
「とくしまマラソン」 2万人大会の開催<再掲>	大会	1万人	25	1.5万人	2万人	30	第11回「とくしまマラソン」の開催準備を行った。	にぎわい づくり課	